

結婚プレミアム：KHPS を用いた再検証

一橋大学大学院経済学研究科博士後期課程 孫亜文¹

結婚が所得に与える影響は、経済学では結婚プレミアム／ペナルティと呼ばれている。結婚プレミアムについては、アメリカ・イギリスで多くの研究が蓄積されており、男女では異なる結果が報告されている。先行研究によると、男性では、結婚が賃金に正の影響を与えることが多く、女性ではほとんど影響が観測されない。

日本のデータを用いた研究（川口（2005））では、男性について結婚・出産プレミアムが観測されたが、女性では対照的に結婚・出産ペナルティが観測された。しかし、データの制約上、有配偶男性と無配偶男性の比較分析が行われなかったため、本稿では、2004年から2012年までの『慶應義塾家計パネル調査』の個票データを用いて、結婚プレミアムの再検討を行う。

その結果、OLS 推定では男性の結婚プレミアムが観測されたが、女性ではなにも観測されなかった。観測されない個人間の異質性をコントロールした固定効果推定では、共に統計的な有意性は得られなかった。つまり、男性については、観測されない個人属性が結婚プレミアムを生じさせ、女性については他の要因があることが示唆され、先行研究とは異なる結果となった。また、女性のサンプルセレクション問題について、Nijman and Verbeek (1992) に従って、サンプルセレクション検定を行った。その結果、分析で用いた KHPS の女性データはランダムセレクションであることがわかり、サンプルセレクションを考慮したモデルを用いなくても良いことがわかった。

表 1 推定結果

推定方法	男性				女性			
	OLS	FE	OLS	FE	OLS	FE	OLS	FE
被説明変数	log 賃金	log 賃金	log 賃金	log 賃金	log 賃金	log 賃金	log 賃金	log 賃金
結婚ダミー	0.185 (0.044)***	-0.028 (0.048)	0.175 (0.043)***	-0.022 (0.048)	-0.069 (0.044)	-0.091 (0.057)	-0.052 (0.042)	-0.087 (0.057)
結婚期間	0.006 (0.002)***	-0.002 (0.004)	0.005 (0.002)**	-0.003 (0.004)	-0.003 (0.002)	-0.006 (0.005)	-0.002 (0.002)	-0.005 (0.005)
大企業・職種	No	No	Yes	Yes	No	No	Yes	Yes
R^2	0.20	0.04	0.24	0.04	0.13	0.02	0.17	0.02
N	9,246	9,246	9,246	9,246	6,774	6,774	6,774	6,774

* p<0.1; ** p<0.05; *** p<0.01.

括弧内は標準誤差を表す。OLS はプーリング推定, FE は固定効果推定である。

¹ Email: ed122005@g.hit-u.ac.jp